

4月21日「食品に関するリスクコミュニケーション(米国产牛肉輸入問題に関する意見交換会)」アンケート集計表
(東京会場)

出席人数: 310 有効回答: 94 回答率: 30%

問1 あなたはどのような立場で参加しましたか。

	1 消費者団体	2 食品関連事業者(団体を含む)	3 生産者(団体を含む)	4 主婦	5 学生	6 無職	7 地方自治体職員	8 国家公務員	9 その他	* 未記入
問1	13	35	5	4	1	2	14	5	8	7
フリーライター、消費生活アドバイザー、報道、自営業、NPO、食品コンサルタント、食品検査機関、商社、肥料関係、消費生活アドバイザー、食品安全委員会モニター、ミートアナリスト 等										

問2 本日の意見交換会の開催を、どのような方法で知りましたか。

	1 厚生労働省・農林水産省のHP(報道発表資料)、配布物	2 厚生局・農政局のHP、配布物	3 農政事務所のHP、配布物	4 その他の行政機関のHP、配布物	5 メールマガジン	6 新聞、雑誌等	7 所属団体からの連絡	8 その他	* 未記入
問2	49	6	5	1	9	2	19	6	2
記者会、取引先、食品安全委員会									

問3 開催を知って何日後に参加することを決めましたか。

	1 (3日以内)	2 (4日～7日)	3 (8日～11日)	4 (12日～15日)	5 (16日以上)	* 未記入
問3	81	3	5	0	0	5

問4 前半に行った行政からの説明についておたずねします。

問4-1 説明内容について理解できましたか。

	1 理解できた	2 おおむね理解できた	3 どちらでもない	4 あまり理解できなかった	5 理解できなかった	* 未記入
問4-1	31	49	6	3	1	4

問4-2 提示したスライド資料の内容はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問4-2	19	55	15	0	2	3

問4-3 説明者の説明内容はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問4-3	22	47	19	1	1	4

問5 後半に行った会場出席者間の意見交換についておたずねします。

問5-1 司会者の進行は適切でしたか。

	1 適切だった	2 おおむね適切だった	3 どちらでもない	4 あまり適切ではなかった	5 適切ではなかった	* 未記入
問5-1	17	54	4	9	0	10

問5-2 質問者に対する行政からの説明はわかりやすかったですか。

	1 わかりやすかった	2 おおむねわかりやすかった	3 どちらでもない	4 ややわかりにくかった	5 わかりにくかった	* 未記入
問5-2	12	53	17	8	1	3

問5-3 様々な立場の方がお互いに広く意見交換できていましたか。

	1 できていた	2 おおむねできていた	3 どちらでもない	4 あまりできていなかった	5 できていなかった	* 未記入
問5-3	4	41	19	24	2	4

問5-4 意見交換の時間は十分でしたか。

	1 長かった	2 やや長かった	3 ちょうど良かった	4 ちょうど良かった	5 短かった	* 未記入
問5-4	1	3	37	30	17	6

問5-5 発言者の声はよく聞こえましたか。

	1 聞こえた	2 おおむね聞こえた	3 あまり聞こえなかった	4 聞こえなかった	* 未記入
問5-6	51	37	3	0	3

問6 意見交換会を開催したことを評価しますか。

	1 評価する	2 おおむね評価する	3 どちらでもない	4 あまり評価しない	5 評価しない	* 未記入
問6	41	41	5	2	0	5

問7 日頃からご関心の高いものについて、3つまでご回答下さい。

	1 残留農薬	2 食品添加物	3 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質等)	4 環境からの汚染物質(カドミウム、メチル水銀、ダイオキシン類等)	5 天然毒素(カビ毒等)	6 加工中に生成する汚染物質(アクリルアミド等)	7 家畜の病気(BSE、鳥インフルエンザ等)	8 有害微生物(病原性大腸菌、サルモネラ菌等)	9 遺伝子組換え農作物	10 食品表示	11 トレーサビリティ	12 その他	* 未記入
問7	36	27	14	14	6	8	37	14	14	35	21	2	10
食品中の発がん物質、リスク理解													

問8 本日の「食品に関するリスクコミュニケーション(米国産牛肉輸入問題に関する意見交換会)」の感想、その他運営などで、何かお気づきの点や感じたことがございましたらご記入下さい。

問8

後半の意見交換については、一般消費者からの意見をもっと入れてほしかったと思います。今回の問題は難しい内容ですが、我とのみならず一般消費者向けに具体的にわかりやすくしていただければ、もっとたくさん意見出るのはないかと思えます。前半はわかりやすかったです。

情報提供と待遇説明という意味では評価できる。共通理解を促進する場としての設定としては？が、毎回「結論ありき」の意見交換に終始している感が否めない。何を目的としているかが明白にされていたので、この時間配分でもしかたないが、もう少し余裕を持った場の設定がほしかった。

意見交換について、消費者団体、生産者団体、主婦連団体以外の方の意見も聞いてみたかった。普段、発言のない分野の方々はどうお考えなのか。活発な本当の意味での意見交換が必要と感じます。

このような形骸的なアンケートならばアンケートをとる必要はない。今回も含めて、国の行うこのような催しは、リスクコミュニケーションの意味合いを広義と狭義に使い分けているにすぎない。担当されている方が真摯でないといっているわけではないが。

内容が豊富で時間が短く、進行に苦勞されたと思います。

もっと質問者を増やすべき。

意見交換の時間が短すぎる。HPIに意見交換の内容ものせてほしい。

もっと機会を多くしてほしい。

日本の食糧問題を防衛として国民に理解させるべきである。資金投入及び技術課題を検証してデータや手法を確立するべき。

冷静な意見交換がなされてよかったと感じました。

米国農務省からの報告書(仮訳)についての説明がほしかった。ミチベルヘグナー社の情報開示がほしい。

行政の説明が長すぎる。意見交換と説明時間のバランスが悪い。

日本独自のスタンスを崩すことなく、また、対抗策に屈せずやってほしい。

静かで人の声もよく聞こえてよかった。

牛肉輸入再開を目的とするものであるのが見え見えである。

行政からの説明にメリハリがなくとても長く感じた。

情報提供と待遇説明という意味では評価できるが、共通理解を促進する場としての設定としては？が、毎回「結論ありき」の意見交換に終始している感が否めない。何を目的としているかが明白にされていたので、この時間配分でもしかたないが、もう少し余裕を持った場の設定がほしかった。

用語がわからないのがあった。

様々な立場の意見を聞くことができよと思う。時間はもっとあった方がよと思う。会場はもう少し余裕があった方がよい。

違反事例の内容は理解できた。再開にむけて合意した内容について次回のリスクコミに期待している。

お疲れですが、ほおづえをついたり態度が横柄に見受けられます。本当に市民・事業者とコミュニケーションする気があります？プリオン委員会の辞任のコメント資料は、誰が言ったのかわかりません。2、3人の方のコメントのみとれます。これをもって「問題はなかった」とすることは無理があります。質問者の時間制限をするように答弁も時間をくぎると、きつと回答が聞きやすいのだと思えます。

消費者の方々の意見が聞けるので、リスクコミはとても良い場と理解しています。でも日本人はあまりにたかくなすぎるといつも感じます。流通業者としてやはりいいのは、BSEごときといつては怒られますが、食の安全というならば、抗生物質や添加物の方がよほど危険だと思っています。一日も早いUSビーフの解禁を望みます。アメリカから入らないなら、カナダから回しても入れてほしい。

アメリカの代弁者という感じが否めない。再輸入までの道筋が出せないということに疑問がある。パソコンの持ち込みは禁止してください(報道以外の人です)打ち込み音が大変気になる。

本日の司会はgood!

概ね実り多いものだったと思います。米国と日本の食文化、生死感など、文化、精神構造に起因する要素も強いので、今後はそこにもスポットをあてるのも一つの方法かと思えます。

再開を期待します。

リスクコミで出た質問、どのように回答したかを、結果として公表してほしい。輸入再開に対しては、国民的理解が得られたかについての評価も(科学的データはもちろんだが)示しながら行うべき。

行政の方々の真摯な態度、深い能力には感心しました。はじめて出席しましたが、これらの方々で日本を支えているのだと安心しました。面白がって騒ぐのは、私も含めてもうやめようではありませんか。

そもそもアメリカのBSEに対する認識の甘さが根底にあると思う。食の安全を他国に委ねる以上、きちんと監視できる条件が必要。

ヤコブ病のリスクを低くするのであれば、中南米、メキシコ、チリ産の牛肉の方がアメリカ、カナダより不安。厚生労働省及び食品安全委員会は、一日も早くこれらの国の評価(リスク)すべきだ。

国民への説明であれば、もっと他にも伝達手段があるのではないか。限られた定員で、参加している人の中に消費者団体が多い。どれくらいの割合の人が納得すればいいと考えているのか。

もう少し余裕のある席がほしい(窮屈)。明確な回答ができないのであれば、意見交換にならないと思う。

これからも学習してゆきたい。

意見交換会ではありませんが、持っている情報量の違いから、基本的には行政からの説明に終わっているように思えます。また、参加者からの質問に答えることに終わっていることが残念でした。しかしながら、様々な立場の方が意見を言える場があることは非常に重要と思われま。

根本的、本質的問題点の究明、消費者が選択できるためのシステム等のディスクロージャーをお願いする。未来の命を守るために！！

今回は消費者の質問に対して回答が限定的であって、不満が残るものとなった。

何時リスクコミになるのか。説明会の域を出ていない。

行政としては、このような運営をされることは良いことと思えます。意見の時間を5分程度頂けたら尚良いかと存じます。

最初に、厚労、農水両省がこうした国民の声を聞く機会を設けられたことに敬意と感謝おくります。しかし、基本的なところで、政府や会議の目的が、「米国の牛輸入再開を急ぐ」を先行させていることに対し、日本の消費者の多くは「全国民の食の安全安心をどうしたら守れるか」の願いが目的であることのギャップが最後まで埋まらなかった会議だと思えます。日本の学者の「日本はよけいな金を牛の検査に使いすぎ」の発言には、開いた口がふさがらなかったです。この日、日本のBSE25頭目が見つかったと報じられましたね。全頭検査がなく、もしこの25頭が野放しのままだったらと恐ろしくなります。米は検査体制がないに等しいですから、どれだけのBSE牛がいるかわからないのに、日本がたまじりにプログラムだのリスクだと騒ぐのはナンセンスです。日本が実施している全頭検査、危険部位の除去、加工食品・外食の表示等。今できる確かなことの実現から出発してください。厚労、農水省の皆さんの奮闘を期待します。

発言者を特定分野に偏らず、公平に発言機会を割り振ったことを評価します。

食品安全委員会の再評価を諮問してください。米国の輸入再開は米国側提出資料に基づき評価で行われましたが、検証が不十分であったことが、菅野混入とその件の米国報告で明らかになりました。米国の生産現場やリスク要因に関する調査を日本政府主導で行い、そのデータでの評価を食品安全委員会に諮問してください。査察では遵守状況の確認は困難と考えます。昨年末の査察に関する報告の際に詳細な報告を求めましたが、なされませんでした。そもそも米国側に案内されるままの査察を1〜2日で行っても問題が明らかになるとは思えません。査察が行われた工場が香港に違反物品を出荷したことで、貴省もそれを実感されているはず。たとえば、当面の間、査察官を常駐させるくらいの措置を取らなければ、違反の防止は無理と思えます。ご検討ください。

今後早急な輸入再開に努力すべき。

消費者連合、主婦連合等の意見が多すぎると感じた。